

第6回 日本胸部外科女性医師の会

6th Meeting for Women in Thoracic Surgery in Japan
(WTS in Japan)

活動報告書

代表世話人

| | |
|------|------------|
| 富澤康子 | (東京女子医科大学) |
| 齋藤 綾 | (東京大学) |
| 林田恭子 | (南丹病院) |

はじめに

2006年に第一回日本胸部外科女性医師の会を開催して以来すでに5年の年月が過ぎ、今年も第6回目を迎えることが出来ました。医療全般において女性医師を取り巻く環境変化に応じ、外科領域における女性医師の就労状況もより広く受け入れられつつあります。専門性が高いこの胸部外科領域において、さまざまな立ち位置からキャリアを積み仕事を継続していこうとする努力が方々で絶えずなされております。より多くの知り合いを作り、より多くの流儀・モデルを知ることは経験を積む上で非常に有用と思われれます。我々は本会を通じて諸先生方の間に円滑なネットワーク作りが図ることができるようお手伝いすることを目的とし、今年も日本胸部外科学会協賛のもと日本胸部外科学会定期学術集会に併設して第6回集会を開催いたしました。

今年はシンガポールからゲストを迎え講演をいただくことが出来ましたので、要旨のご紹介と共に会の内容について御報告いたします。

第6回 日本胸部外科女性医師の会 (Women in Thoracic Surgery in Japan)

日時：2011年10月10日（月曜日）18:30—
会場：名古屋国際会議場 212号室（2号館1階）
会費：1,000円（乳幼児無料）

講演

Dr. Kristine Teoh Leok Kheng

**Department of Cardiac, Thoracic and Vascular Surgery,
National University Heart Centre, Singapore**



日本胸部外科女性医師の会 世話人

富澤 康子（東京女子医科大学）

齋藤 綾（東京大学）

林田 恭子（公立南丹病院）

第6回日本胸部外科女性医師の会

日時：2011年10月10日 18時30分～19時30分

場所：名古屋国際会議場1F 212号室

招請演者：**Dr. Kristine Teoh Leok Kheng**

(Department of Cardiac, Thoracic & Vascular Surgery,
National University Heart Centre, Singapore)

招請ゲスト：**Dr. Pia Myken**

(Department of Cardiothoracic Surgery,
Sahlgrenska University Hospital, Sweden)

参加者：(以下 アイウエオ順)

厚田 幸子 (名古屋大学)

上田裕一先生 (名古屋大学)

碓氷章彦先生 (名古屋大学)

小野 稔先生 (東京大学)

北条玲奈先生 (三重大学、臨床研修医)

剣持礼子先生 (岡山大学 臨床研修医)

八木葉子先生 (八戸赤十字病院) *

安田あゆ子先生 (名古屋大学)

浦崎 学様 (セント・ジュード・メディカル株式会社)

中井信也様 (セント・ジュード・メディカル株式会社)

長尾久海子様 (エドワーズライフサイエンス) *

茂手木真佐美様 (エドワーズライフサイエンス)

寺井大輔様 (テルモ株式会社) *

松田和久様 (ニプロ株式会社)

(*の方は第一回目よりご参加いただいております)

および世話人 (富澤・齋藤・林田)

以上 18 名

集会概要

今年で胸部外科学会女性医師の会創立6年目を迎えました。大会会長である上田裕一先生の多大なるご配慮により、本年も日本胸部外科学会定期学術集会に併設し招請演者およびゲストをお迎えし、第6回定例会を開催することができました。

内容は、シンガポールで初めての consultant cardiac surgeon としてご活躍なさっている Dr. Teoh より、シンガポールでの胸部外科領域における女性医師の役割・状況についてご講演いただきました。我が国同様、シンガポールにおいても女性医学部生の占める割合は増加し半数以上を占めるようになりましたが外科系を志望する女子学生は今でも10%未満という現況にあります。20世紀までは女性医師が皆無であった胸部外科・血管外科領域に、21世紀に入りようやく3人の女性医師が consultant surgeon として、1人が修練医として臨床に携わるようになりました。また、Dr. Teoh が修練を積まれた英国においても21世紀に入り（全体に占める割合は低いとはいえ）やや女性（胸部）外科医師数は増加を見せました。このような状況で以下に記す3つの信条のようなものが存在してきたと Dr. Teoh は指摘されました；#1 Myth: Women have to struggle harder, #2 Myth: Male colleagues are hostile, #3 Myth: Women are discriminated against。ただしこれらが現在存在しているかは定かではありません。最後に、今後の個々人の臨床経験をよりよく蓄積するためのコツについて提示されました；Rule no.1: Don't expect any favour, Rule no.2: Achieve the standard, Rule no.3: Add value to the team。性別に関わらず同等に仕事をするうえで欠かせない留意点として非常貴重な提言であったと思われました。心臓外科チーフをして働く上で実際お困りになった点は、(Dr. Teoh が) 小柄であるために一緒に歩いている若いチーム医師（修練医など）がチーフと間違えられることもある、と苦笑されておりました。また、招請ゲストとしてお迎えいたしました Dr. P. Myken (Sweden) からコメントをいただきました。Dr. Myken は女性であることが心臓外科としての仕事上差支えることはなかったと言及されました。ただし、各年代・各レベルを歩み進んでいく際に、自分の進行度やその先の予測をするうえで自分の客観的立場を把握するヒントがなかった（周

困にロール・モデルを探すことが困難だった) ことが少数派の女性医師にとってキャリアを積む上で難しかったかもしれないとコメントされました。

次に、齋藤より簡単に過去の集会への参加者状況および今後の女性医師の会のあり方に関する世話人の考えをご報告差し上げました。過去の参加者数は(女性医師数)

| | | |
|-------|-----|-------|
| 2006年 | 37名 | (14名) |
| 2007年 | 17名 | (11名) |
| 2008年 | 13名 | (11名) |
| 2009年 | 13名 | (7名) |
| 2010年 | 18名 | (9名) |

と、平均約20名の参加者が毎年得られていましたが、対象とする母集団が少ないため多くの参加者は見込めないのが現状であります。従って、形式的な組織づくりをする時期には到達しておらず今後も暫く過去同様の形式で毎年1回集会を開催する方針で参加者の方々よりご同意をいただきました。また、会の立場および目的については、学会内委員会(女性医師支援や処遇改善委員会など)とは別次元の外部団体として、医師、研修医、学生、および他職業の方々との親睦を深める場を提供することが目的であることを再確認いたしました。

講演会終了後は同国際会議場7回の展望レストランにて懇親会を設け、参加者の間で気兼ねのない議論などもかわすことができ20時半過ぎに解散となりました。

胸部外科学会総会のスケジュールが非常に緊密であったにもかかわらず多くの方々にご参加いただくことが出来、本年の定例会を修了することが出来ました。

(文責：齋藤 綾)

2011 年度会計報告

| | | | |
|----|-----------------|-------|---------------|
| 収入 | | | |
| | 補助金（日本胸部外科学会より） | | 300000 |
| | 第6回集会 参加費 | | 15000 |
| | 前年度繰り越し | | 366307 |
| | 計 | | 681307 |
| 支出 | | | |
| | メール一括配信業務 | | 20000 |
| | News letter掲載費 | | 97136 |
| | 第6回集會会場設置費 | | 8400 |
| | 第6回集會懇話会費用 | 52298 | 58189 |
| | | 5891 | |
| | 記念品代 | | 4215 |
| | 銀行手数料 | | 210 |
| | 切手代 | | 5000 |
| | 次年度繰り越し | | 488157 |
| | 計 | | 681307 |

（林田恭子／齋藤 綾）

集会風景



おわりに

現在日本胸部外科学会に登録している女性会員のうち正会員は心臓外科・呼吸器外科を合わせて 25 名（全正会員数 284 名）、評議員 1 名と、徐々に増加傾向にあります。しかし、年齢・学年・ここの社会的環境に応じた（女性）胸部外科医師の role model を身近に見つけることが未だ難しいのも現状です。毎年全国から多くの先生方が集まる日本胸部外科学会総会の場をお借りして、role modeling や mentorship の範囲を拡大するための「場」を設定する意義においてかねてより注目してまいりました。

様々なライフスタイルを維持しつつ高度医療に参加していくためにこの会が女性医師同士がお互いの知識や経験を共有し、協力し合うきっかけとなること出来れば幸いと信じつつ、来年に向けて世話人一同邁進する所存であります。

最後になりましたが、本会の開催にご協力いただきました上田先生をはじめとする名古屋大学スタッフの皆様、日本胸部外科学会事務局の皆様、参加者の皆様および株式会社コングレの方々へ改めて世話人一同心よりお礼を申し上げます。

2012 年 2 月

文責 代表世話人 齋藤 綾